



## ご挨拶

今日は“*A-Winds48*” 2016年 春の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月“アンサンブル”という少人数の音楽スタイルの延長上に位置付け“ウィンドオーケストラ”と称し、大人数編成にて遷都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催、以後四季折々に開催する、*A-Winds*の定期演奏会も、第48回目を迎えることができました。これもひとえに、我々 *A-Winds*の活動、そして共に音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と心より御礼申し上げます。

今回の第1部には、M. エレビーの名を世界中に知らしめた最高傑作と称えられている、自身が感銘を得たパリの街並みの印象を作品にした“パリのスケッチ”。第2部には、樹齢7200年にもなる神秘的な深い森に覆われた、鹿児島県屋久島に育まれる豊かな生命力を、未来へと繋げていきたい思いを作品にした“森の贈り物”。

近年、そんな大切な文化遺産さえ一瞬にして壊してしまう地球規模の大きな災いが世界のあちこちで頻繁に起こるようになり、また特にこの春という季節は、あらためて、人間の無力さに無常な思いに耽る季節でもあります。

我々ができることは、艱難辛苦を乗り越えて、上を向いて、あらゆる生命を育み、次の世代へそして更にその次の世代へと、このかけがえのない地球に、必要とされる活動をする事かなと。さあ演奏会♪

花咲いて あたたかい春 始まった (光瑠：作)

*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ 団長 魚谷 昌克

\*

今日は、“*A-Winds48*” 2016年 春の演奏会へようこそお越し下さいました。今回48回目の演奏会を迎えられたのも多くのお客様にお越し頂けるからこそと感謝しております。

3月、東北の震災から5年経ちますが、いまだ復旧、復興は道半ばと聞きます。5年前の3月、居ても立っても居られず悲愴な緊張感の中、演奏会で募金の呼びかけをした事がまるで一昨日の出来事のように思われます。

今回のプログラムは、総じて「大自然への感謝」です。春の息吹を感じること、今を生きている事、森の恵みへの感謝を込めた吹奏楽オリジナル曲に取り組みながら音楽の幅を広げようと *A-Winds*サウンドを模索しています。

2部のコンダクターは福島県出身。震災当時は20歳という若者です。まだ生々しい記憶であるに違いないのですが、彼も成長し、今回タクトを託されたのも何かの縁、これから未来を築く若者のひとり指揮者として迎え、方舟は出立いたします。

春の彼岸は、自然をたたえ、生物をいつくしむ日と言われています。加えて亡き人を偲びながら団員一同、一曲一曲への思い、3月の演奏会という特別な意味を込めて演奏いたします。

最後になりましたが、本公演開催にあたりご支援を賜りました方々に、心より御礼申し上げます。

“*A-Winds48*” 2016年 春の演奏会実行委員長 大田雅美



## *A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ

### Flute & Piccolo

佐藤 由加里  
佐藤 司  
魚谷 陽子  
小谷 愛奈  
杉浦 順子\*

### Oboe

桶谷 牧子

### E♭ Clarinet

森 望

### B♭ Clarinet

竹村 明恵  
森本 幸恵  
近藤 晴美  
中西 亜麻音  
山崎 麻里子  
米田 彩乃  
山上 紗季  
石飛 綾夏

### Alto Clarinet

大西 晴己

### Bass Clarinet

尾崎 玲奈\*

### Fagott

深田 良子

### Alto Saxophone

島田 博一  
三宅 利幸

### Tenor Saxophone

初岡 和樹

### Baritone Saxophone

八木 理

### Horn

久野 耕三  
大田 雅美  
佐伯 直人  
富川 陽太郎  
福谷 潤一郎  
九鬼 聡美\*

### Trumpet

魚谷 昌克  
表 恭子  
竹腰 綾香  
井上 寛治  
谷田 弥生  
鎌田 麻友  
山本 洋介

### Trombone

小泉 文浩  
田中 由美  
木下 真由美  
松岡 まゆみ

### Euphonium

藤村 晃世  
池内 砂織  
尾登 勇介

### Tuba

杉浦 小道  
小野村 謙\*

### Contra Bass

佐藤 良一

### Percussion

久保 寛美  
松嶋 春香  
梶本 雅子  
小野 聖子  
森田 晶  
早川 健太郎  
浦野 佳美

### Piano

八木 真木

### Stage Manager

河津 雅之\*

### Announce

境 貴子\*

団員 = 49名

♪演奏会実行委員

\*エキストラ

♪休団



2016年3月21日(月・休) 13:30開場 / 14:00開演

やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● *A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ

後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



## プログラム & プログラムノート

### 第1部 指揮：魚谷昌克

#### 序曲「春の獵犬」／THE HOUNDS OF SPRING A Concert Overture for Winds

○アルフレッド・リード／ALFRED REED

○出版：PIEDMONT Music Company

19世紀末の英国の詩人、アルジャーノン・C・スウィンバーンによる詩劇「カリュドンのアタランタ」の冒頭部の合唱詩の中に、次のような一節があります。

春の獵犬たちが 冬の足音をたどる頃 月の女神が牧場で 草原で  
暗がりやを、風吹く場所を 葉音、雨音で 満たす 微笑隠す  
唇ほど柔らかな木々の茂みを陽気に分け入り  
追ひ求める神々の目を逃れ かの乙女は身を隠す

雪解けが始まり、春が目前に迫った喜びを詠った詩で、作曲者のリードはこの詩に深く感銘を受け、1980年に序曲「春の獵犬」を吹奏楽作品として世に送り出しました。全編が明るく美しい雰囲気にも包まれた曲で、リードの作品の中ではアルメニアダンスシリーズに次ぐ代表作と言えるでしょう。春というよりは、吹奏楽コンクールの自由曲として遠き日の夏の思い出という方も多いのではないのでしょうか。

#### パリのスケッチ／Paris Sketches

○マーティン・エレビー／Martin Ellerby

○出版：MAECENAS Music

この作品は、エレビーが愛する街パリにゆかりの作曲家を称え、パリの有名な地域の情景からインスピレーションを得た4つの楽章で構成されています。作曲者によると『鐘の音』がパリの生活の特徴付け、作品全体を一つに結びつけています。

教会の鐘とともに目覚める静かな朝  
夜の歓楽街の猥雑な喧噪  
しんと静まり返った墓地  
活気に満ちた市場の様子

を繊細かつ豊かなサウンドで色彩豊かに描いたこの曲は、マーティン・エレビーの名を世に知らしめた氏の代表作でもあります。

●第1楽章「サン＝ジェルマン＝デ＝プレ」(Saint-Germain-des-Prés)

パリを流れるセーヌ川左岸の中心地サン＝ジェルマン＝デ＝プレは、パリで最も古い同名の教会のある文化と学術の街です。パリに居住したラヴェルのイメージによる薄明の差しかかる澄み渡った朝の情景を表現し、教会の『鐘の音』とともに街は目覚めていきます。

●第2楽章「ピガール」(Pigalle)／Alla marcia

ピガールはパリ随一の歓楽街で、キャバレーやナイトクラブ、ストリップ小屋が軒を連ねるセーヌ河右岸のピガール広場一帯。夜の喧騒を技巧的なスケルツォ風に描いたこの楽章が象徴する『鐘の音』はまさしく曲中で響きわたる警察のサイレンです。

●第3楽章「ペール・ラシェーズ」(Père-Lachaise)／Lento et triste(quasi gymnopédies)

パリの東部にあるペール・ラシェーズ墓地は、ロッシェニ、ビゼー等が眠るパリ最大の墓地です。楽章の冒頭に「ジムノベディのように」と書かれています。「ジムノベディ」とは古代スパルタの戦没した兵士を悼む踊りの事で、フランスの作曲家エリック・サティ作曲の同名の作品のオマージュとも言うべき、憂いを秘めた3拍子が特徴の楽章です。『鐘の音』は優しく郷愁に満ち、最後にトランペットが死者を悼む物悲しい旋律が流れ静かに終わります。

●第4楽章「レ・アル」(Les Halles)／Allegro molto

レ・アル(レ・アール)はかつてパリの中央市場があった地域で、現在でもショッピングセンターなどが立ち並ぶ賑わいと活気にあふれた街です。テンポの速い、賑やかなフィナーレで、『鐘の音』は勝ち誇り祝福するように響きます。クライマックスには、ベルリオーズの「テ・デウム」からのオマージュがあり、これは、1855年にパリ万国博覧会の際にこの地で同曲を初演したことから来ています。

### 第2部 指揮：富川陽太

#### ノアの方舟／NOAH'S ARK

○ベルト・アッペルモント／Bert Appermont

○出版：BRRATO Musical Projects

この曲は、1973年ベルギー生まれの作曲家アッペルモントが、ヤン・ヴァン・デル・ローストのもとで学んだレメンス音楽院の卒業課題として制作した作品です。

聖書に出てくる有名な「ノアの方舟」のストーリーに題材を集めた作品で、連続して演奏される次の4つの楽章から成っています。

- 1楽章「お告げ」(The Message)  
「洪水が近いので、それに備えて大きな方舟を作るように」との神託をノアが与えられる場面です。トランペットが語りかけるようにテーマを歌い始め、ユーフォoniumがそれに呼応して始まる、厳かなムードを湛えた楽章です。
- 2楽章「動物たちのパレード」(Parade of Animals)  
ノアの呼び掛けに応じて動物たちが次々とそのもとへ集まってくる場面です。木管楽器が動物たちのゆっくりとした歩みを表現し、曲の進行と共にその歩みは着実に力強さを増していきます。
- 3楽章「嵐」(The Storm)  
お告げ通りに嵐はやってきました。地上に生きる生物がこれまでに体験したことのないようなすさまじい嵐が吹き荒れ、洪水が押し寄せて地面は水没します。
- 4楽章「希望の歌」(Song of Hope)  
嵐を乗り越えたノアと動物たちが、水が引いた後の世界に戻って新たな生活を始める場面です。クラリネットが「希望」のテーマを歌い始め、その再建への槌音はバンド全体に広がっていきます。1のテーマが戻ってきて、あたかも「遠く昔むかし、こんな話がありました」と語りかけるかのように、音楽は忘却の彼方へ遠ざかっていきます。

#### プリズム／PRISM Fantasy for Concert Band

○スティーヴ・シェーファー／Steve Shafer

○出版：SOUTHERN Music Company

プリズムは、スティーヴ・シェーファーの初の吹奏楽オリジナル作品として1998年に作曲されました。作曲家、編曲家、演奏者としてアメリカやヨーロッパで活躍していた彼は、各地で多様な音楽と文化に触れたようです。それらが彼の音楽に魅力を与えているのでしょうか。この曲は、3つの楽章で構成されています。それぞれの楽章は3つの全く異なった印象をもち、多様な曲想を表現しています。

- 第1楽章は躍動感をもって始まります。冒頭に出てくる主題が、まるで光をとらえるプリズムのように、曲の最後まで違った形で繰り返されます。
- 第2楽章は、オーボエの美しいソロで始まります。それに続くピッコロのソロは、柔らかなバグパイプの音色のようにケルト風の雰囲気をもっています。
- 第3楽章は、激しい曲調に変化し、切迫感もちながクライマックスを迎えます。

#### 森の贈り物／Legacy of the Woods

○酒井格／Itaru Sakai

○出版：De Haske Publications

龍谷大学学友会学術文化局吹奏楽部により、2003年に委嘱された作品で、その年の全日本吹奏楽コンクール大学の部にて、若林義人指揮により同団体は金賞を受賞しました。

作曲者である酒井格氏は、長い間「森」を題材にした作品を書きたいと思っており、「森が長い年月をかけて作り出してくれた物。私たちがどれほど森の恵みを受けてきているのだろう。」というイメージが広がって生まれた作品である、と述べています。英題は「Legacy of the Woods」であり、「森」が長い年月をかけて残してくれた、「Legacy(遺産)」が心に強く感じられる作品です。

森の妖精が優しく語りかけるようなホルネットソロから始まり、鳥の鳴き声、水のせせらぎなど、耳を澄ませば、雄大で時には繊細な「森」の情景が浮かんできます。終盤の、ホルネット、シロフォン、クラリネットなどの超絶技巧にも注目です。



## ご案内

### “A-Winds 49” 2016年 夏の演奏会

2016年6月26日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール 大ホール

“A-Winds49” 2016年 夏の演奏会は、元大阪市音楽団トロンボーン奏者の松下浩之氏を客演指揮にお迎えして、吹奏楽の名曲をお届けします。

1部は吹奏楽の人気曲を数多く作曲している作曲家ヤン・ヴァン・デル・ロースト氏の作品の中から、「コンサートマーチ アルセナール」「交響詩スバルタクス」などを、2部にはチャイコフスキー作品の主題が断片的に使用され変容していく「エクストリーム・メイクオーバー」などを揃えて、皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。

“A-Winds49” 2016年 夏の演奏会 実行委員長 田中由美・谷田弥生



## A-Winds メンバー募集

### ●募集パート

- Oboe 1名  
※イングリッシュホルンも演奏できる方、イングリッシュホルンも持ちの方、大歓迎です！  
まずはご相談ください！！
- Eb Clarinet 1名
- Bb Clarinet 1名
- Bass Clarinet 1名
- Fagott 1名
- Horn 1名
- Tuba 2名
- Contra Bass 1名
- Stage Manager 1名

- A-Windsの活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 18歳以上の方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp

### 募金のお礼とご報告

A-Windsでは演奏会開催ごとに「東日本大震災の義援金」を募っております。

前回の演奏会、2015年11月1日開催のA-Winds 47では4,637円の募金をお預かりしました。

また、募金を開始したA-Winds 38では20,407円、A-Winds 39では5,733円、A-Winds 40では3,228円、A-Winds 41では18,633円、A-Winds 42では9,724円の募金をお預かりしました。

皆様からいただいた貴重な義援金は、演奏会終了後にA-Windsが責任を持って日本赤十字社の義援金受付口座に全額を振り込んでおります。募金にご協力いただいた多くの方々に団員一同、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。